

呼んでる木

(1) 概要

目かくしをして広場や林に生えている木に歩いていき、触ったりにおいを嗅いだりして木の感じをとらえます。十分感じ取ったら、目かくしのままスタート位置に戻り、今度は目かくしをとり自分で探して会いに行きます。

子どもたちはほとんど間違わずに、しかも一直線に自分を呼んでいた木に会いに行くのには驚かされます。



(2) 準備物

- ・バンダナ（目かくしになるもの）

※準備物については原則、団体でご準備いただくことになります。（詳しくは、P119の〈ご注意〉を参照してください。）

(3) 手順

- ① 参加者（子ども）一人に対し、サポート役（スタッフ）が一人ついて、「この中にあなたが来るのを待ってた木があるんだよ。木はあなたに会いたくて、ずっとあなたのことを呼んでいるんだよ。今からその木に会いに行こう。でも、ただ行くのではなく、目かくしをして会いに行こう。」と、気持ちを少しずつ高まらせます。
- ② 目かくしをして、スタッフの手に引かれ木まで歩いていきます。
- ③ 木の前まで来たら、「あなたを呼んでいた木はどんな木なのかな。表面を触ってみよう、においを嗅いでみよう、大きさを調べてみよう、枝はどう伸びているんだろう。」など、木を様々な角度から五感を使って感じさせます。
- ④ 目かくしのまま、スタッフに手を引かれスタート位置までもどります。
- ⑤ 目かくしをとり、どんな木だったかを子どもと簡単に振り返ります。
- ⑥ 「もう一度、あなたを呼んでいた木に会いに行ってみよう。どの木かわかるかな。」と問いかけ、今度は目かくしをとったまま会いに行きます。
- ⑦ ③の目かくしをしたままで感じた木の様子を、今度は目かくしをとった状態で確認するように見えます。

(4) アクティビティのポイント（特性）

- ① 目かくしをすることで、指先や聴覚、嗅覚などの感覚をより研ぎ澄ませ、今まで気が付かなかった何気ない様子を感じ取ることができます。
- ② この自然の中に立っている木が自分を呼んでいるという期待感が、自然を見つめ、大切にしたいという心を育てます。

(5) 留意点

- ① 参加者（子ども）は目かくしをしている不安がありますので、その不安をスタッフがしっかり手を握り導くことで安心感を与えましょう。
- ② 参加者（子ども）が気がつかない部分をいかに気づかせるかがポイントです。スタッフの声かけにより、様々な角度から自然（ここでは木）を感じさせてみます。

